

# 1. 評価結果概要表

[認知症対応型共同生活介護用]

平成22年 4月 7日

## 【評価実施概要】

事業所番号	0171700206		
法人名	有限会社ササキ総合管理サービス		
事業所名	グループホームすえひろ		
所在地	〒049-4315 瀬棚郡今金町字今金358番地の13 (電話) 0137-82-2422		
評価機関名	社団法人 北海道シルバーサービス振興会		
所在地	〒060-0002 北海道札幌市中央区北2条西7丁目かでの2・7 4階		
訪問調査日	平成22年3月17日	評価確定日	平成22年4月7日

【情報提供票より】 (平成 22年 2月 1日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	17年	3月	1日
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18	人
職員数	20 人	常勤	14人, 非常勤	6 人, 常勤換算
			12.3	人

### (2) 建物概要

建物構造	鉄骨ユニット平屋建て 造り	
	1 階建ての	1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円			
その他の経費(月額)	水道光熱費 500円 冬季暖房費 160円(10月15日~4月15日)			
敷金	有(円) (無)			
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	300 円
	夕食	300 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 1,000 円			

### (4) 利用者の概要(2月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名	
要介護1	1 名	要介護2	2 名			
要介護3	11 名	要介護4	3 名			
要介護5	1 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	86.6 歳	最低	76 歳	最高	100 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	今金町国保病院、いまかね歯科クリニック
---------	---------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

今金町の中心地にある遊歩道、オランダ通りに面した事業所は、同法人の小規模多機能ホームと隣接して建てられている。バリアフリーの開放感のある建物は、平成17年に地域での暮らしを支えるグループホームとして待望され誕生した。利用者だけでなく、町の人のいきいきとした暮らしを支えたいという開設時の思いが礎となり、地域に向けての啓発や介護教室、職員の育成などを通じて「福祉のまち今金」の地域の拠点として様々な活動を行っている。理念に基づくケアの実現を目指し職員同士が切磋琢磨し、利用者の笑顔のあふれる暮らしの実現のために事業所一丸となってたゆみない努力を行っている。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回は、運営推進会議の頻度と災害対策が挙げられていた。運営推進会議は回数が増えたものの、今後も継続して取り組む課題となっている。また、災害対策は地域の支援を組織化し地域ぐるみで防災に取り組むこととなっており、中心的存在として今後の取り組みが期待される。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 各職員が自己評価に取組み、持ち寄った結果をユニットごとに取りまとめている。項目の理解を促し、それぞれの職員の個性や視点を大切にしながら、理念に沿ったケアに丸となって取り組めるように考えながら職員の意見を出し合っている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 運営推進会議は、前回の評価後年1回の実施から年3回に回数を増やして実施している。家族会の実施と合わせて事業所の運営のアドバイスを受けており、事業所の行事や生活の様子の報告を行い、外部評価結果や防災などについて意見や協力を呼び掛ける場として活用している。行事の実施などについて寄せられた意見について職員で検討を行い実施に活かすなど、運営推進会議で寄せられた意見を運営に反映している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 内部・外部の相談窓口や、事業所内に苦情相談ポストを設置する等、複数の方法を提示している。また家族会議を年4回実施し、家族同士の悩みの共有を行ったり、家族の思いを汲み取る機会としても活用している。来訪時や電話連絡の際に信頼関係作りに配慮し、寄せられた意見等は職員の共有を図り話し合いをしながら改善に結び付けている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域のボランティアの訪問や、祭りへの参加など、相互の行き来の機会を多く持てるように工夫をしている。地域住民向けの講習会に講師として参加するなど、事業所のノウハウや知識を地域に対して解放している。年2回の避難訓練に地域からの参加者を迎え一緒に実施するなど、日常的な交流以外にも協力体制を築いている。

## 2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域との共存と信頼関係を大切にした運営法人の経営理念と経営方針を踏まえ、平成17年の事業所開設時に職員が家庭的で穏やかな生活を支えるという思いを倫理・ケア理念に込めて作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	倫理・ケア理念を職員会議で唱和したり、事業所内に掲示するなど、日常的に意識している。ケア理念に込められた思いを職員一人ひとりが具体的に活かすことができるように、わかり易い解説文も作成し共有している。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	事業所の所在地だけではなく、利用者の地元の敬老会に参加するなど、利用者が地域の一員として生活を送ることを大切にしている。事業所の祭りに地域住民を招いたり、地域のボランティアなどを積極的に受け入れるなど、地域との支え合いに力を入れている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は、全員が取り組み、持ち寄った結果をユニットごとにまとめている。管理者、職員などそれぞれの立場を越え、理念を踏まえ同じ方向に向かって行けるように話し合いを行い、よりよいケアの提供のために活用している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、隣接する小規模多機能事業所と共に実施している。利用者や家族、今金町保険福祉課、包括支援センター、地域住民など多様なメンバーによって外部評価結果や防災、運営に関する検討が行われている。	○	小規模多機能事業所との合同実施により幅広い話題についての検討を行っている。毎年、開催回数を増やしてきているが、多様な参加者が期待できる合同実施の利点を活かしながら2ヶ月ごとの実施を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事業所の運営に必要な連絡を行うとともに、地域に対する認知症の研修などの際には助言を求めたり協力関係を築きながら、地域への理解を促している。今金町は福祉のまちを標榜しており、相互に地域の福祉の増進のために取り組んでいる。		
<b>4. 理念を実践するための体制</b>					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月のすえひろ新聞や個別の報告などを通して、利用者の健康状態や暮らしぶりなどを報告している。面会の際に金銭の報告を行ったり、随時の電話連絡など、利用者や家族とのよりよい関係作りや事業所との信頼関係作りのため、報告は詳しく丁寧に行っている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年4回実施し、利用者の生活の様子を伝え、家族の意見を聞き取る場を設けている。行事や食事の内容など、家族から寄せられた相談や要望などを職員で検討し事業所の運営に活用している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は、職員が向上心を持って働けるよう、資格取得の支援や、職員の個性を發揮しながら働けるように勤務環境の整備に努めている。法人内の新規事業に伴う異動が予定されているが、利用者への配慮を行い混乱が起きないように準備しながら進められている。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修では、職員が利用者に関わる中で出会う疑問に答え、発見やアイデアを活かす場をすることで資質の向上を図っている。外部研修にも積極的に取り組み、事業所として協力を行い職員の希望を取り入れ資格取得などの取り組みへとつなげている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護事業者の交流の場である「としべつ道場」を通じて職員の交流と研修を行っている。としべつ道場の運営に職員が積極的に係わり、地域のネットワーク作りや学びの場として地域事業者全体の知識やサービスの質の向上を目指している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用開始までに本人や家族に事業所の説明をし、生活歴や希望を聞いている。理解を深めてもらうために、本人を訪問したり、見学を促したり、体験入所を勧めるなど状況に応じて行っている。入居後も利用者の気持ちに寄り添い、自宅との行き来をしながら徐々に生活に慣れるように工夫を行っている。		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の興味や生活歴、身体的な状況を把握し、日常生活動作や手伝いなどを失敗せず楽しく過ごせるように配慮している。自己表現の場や感謝し、感謝される場面を通して利用者の居心地の良い人間関係を作り、職員が地域の歴史や習慣、価値観などを学んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
<b>1. 一人ひとりの把握</b>					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員が交代でセンター方式による利用者の言葉や気持ちを重視したアセスメントを定期的に行っている。また、日々のケアの中での気づきを職員間で共有し、記録を蓄積しながら利用者の意向の把握に努めている。		
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の心の世界を理解して寄り添う視点を大切にし、介護計画にも盛り込んでいる。計画は家族や医療などの関係機関との話し合いや助言を得て、職員が利用者とは丁寧に向き合うため様々な視点を会議で取りまとめて作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにサービス担当者会議を行い、家族にも報告を行なっている。申し送りや疾病などにより、変化の予兆を捉えた場合など随時の変更の場合は、日々の記録や利用者や家族の意向、モニタリングの結果を元に職員が検討し、現状に合わせた変更を行っている。		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院、買い物などの支援や、利用者の居住地の敬老会への出席の支援、思い出の詰まった自宅を見に行くなど利用者と家族の希望に合わせて多様な支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所は、かかりつけ医の受診とともに医師との関係作りにも力を入れている。認知症や失語症であっても医師に気持ちを伝えられるよう工夫し、事業所を介して利用者や家族と医師が信頼し合えるよう情報の共有や報告などの支援を行っている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	事業所として指針を作成し、家族に説明を行っている。重度化等に対応できるよう、医療との連携を行っている。職員との話し合いを行い、事業所としてできることとできないことを明らかにし、方針の共有を行っている。	○	利用者や家族の重度化や終末期に対する思いは、家族の状況や利用者の体調の変化など、時間の経過によって変化する場合も考えられる。事業所で準備を進めている看取りに関するアンケートなどを活用し、定期的に意向を把握する取り組みが期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	自由な暮らしとその人らしさを大切にするという理念に基づき、声掛けやケアの場面での利用者一人ひとりの尊厳に配慮にしたケアを行っている。また、個人情報の保護について職員が学ぶ機会を持ち、個人情報に係る書類等も適切に管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな日課はあるが、一人ひとりの希望や体調に合わせて生活できるよう配慮されている。職員は、利用者の発する言葉やサインを重視したアセスメントを通じて本人本位の視点を持ち、生活の希望を引き出しながらケアに当たっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節の食材や、行事にちなんだ献立、利用者の希望に合わせたものなど、楽しく食べられるよう工夫をしている。食事に関する話題が弾みそこから献立が取り入れられたり、外食に出掛けたり、利用者が摘んだ山菜が食卓に並んだりと食事に変化を付けている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	現在は希望がないため実施していないが、利用者の希望に応じて夜間の入浴を実施するなど、柔軟な対応を行っている。入浴は毎日できるようにし、利用者の体調と希望に合わせて入浴を行っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	ドライブや行事を企画して、利用者の家族と共に楽しむなど、生活にメリハリを付けるよう配慮している。畑での野菜の栽培など、生活歴や趣味を活かした役割をお願いしたり、自宅を見に行ったりなど利用者それぞれの楽しみを大切に支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	事業所の前はオランダ通りの遊歩道が整備されており、安全に散歩を楽しむことができる。買い物や自宅を見に出掛けるなど、利用者の希望と体調に応じて閉じこもらないように支援を行っている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けず、家族や地域住民にも気軽に訪問してもらい、利用者の外出の意向にも沿うように支援している。事業所では身体拘束委員会を設置し、日ごろから身体拘束について学び、事例検討を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	事業所の年2回の避難訓練はもちろん、防火の意識を高めるため事業所内の防火点検も実施している。運営推進会議で地域からの協力を求めると共に、地区防災ネットワーク協議会の設立を目指し、現在調整を行なっている。	○	地域の災害時ネットワークの設立を目指して調整を行っている。スプリンクラーの設置予定や、火災の事例検討や事業所として課題抽出と改善に向けた取り組みが継続的に行なわれており、今後も更なる展開が期待される。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量を記録し食事の形態や栄養バランスは、一人ひとりの身体状況と医師や家族の助言も参考にしながら検討している。一品一品の味を大切に、細かく切ったりすりおろす場合にも美味しく食べられるように配慮している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には、食卓やソファ、小上がりなどがあり、利用者が寛いだり、横になって休んだりと思いいきに過ごせるように工夫されている。避難経路を兼ねたサンデッキや中庭など、外気浴にも利用できる工夫や季節感を取り入れた生花の装飾など家庭的な雰囲気を大切にしている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用前の部屋の雰囲気やお気に入りの品物を取り入れ、以前からの延長となるように居室が整えられている。それぞれの希望に合わせて小型の冷蔵庫やテレビなどを持ち込んでもらい、職員が安全に配慮しながらその人らしさを大切にした暮らしを支援している。		

※  は、重点項目。